

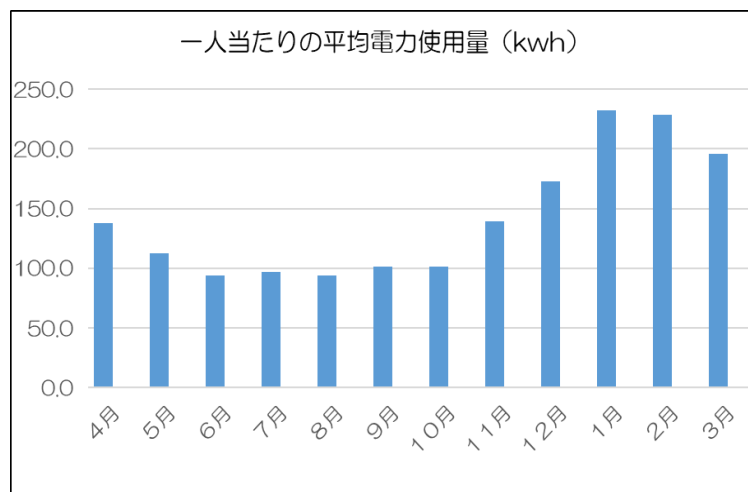
令和5年度「我が家の環境家計簿」分析結果

令和5年度に「我が家の環境家計簿」を利用していただいたご家庭（24件）のデータを基に、家庭で使用される電気の使用状況と二酸化炭素排出量の分析を行いました。なお、うち2件については未記入の項目があるためデータには反映していません。

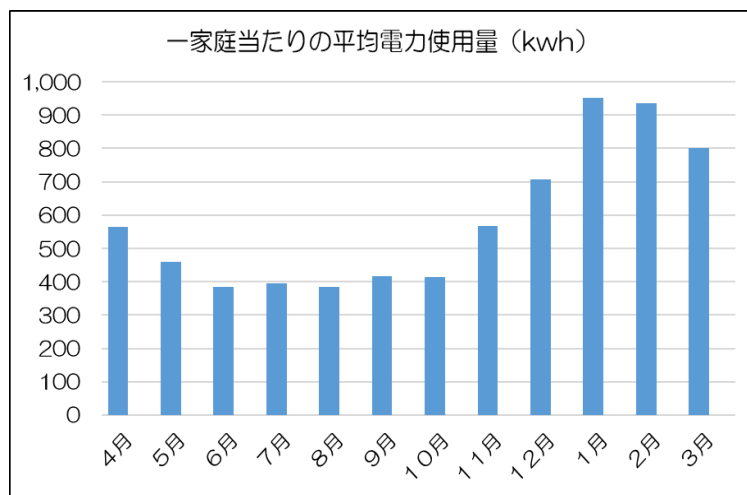
（１）一人当たりの平均電力使用量（kwh）

使用した電力の総量を、各家庭の人数で割り、一人当たりの電力使用量を算出したものです。

傾向としては6月から10月にかけては約100kwhで推移していますが、11月から1月にかけて使用量が増えており、最も使用量が少ない8月（93.7kwh）と最も使用量が多い1月（232.6kwh）との差は約2.5倍でした。



（２）一家庭当たりの平均電力使用量（kwh）



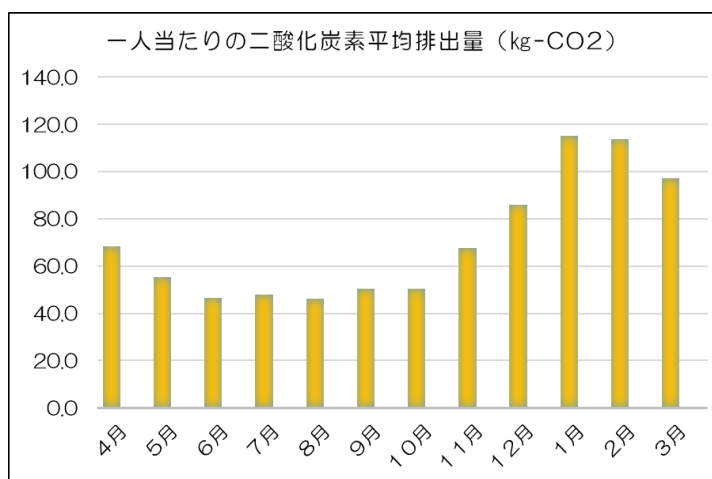
使用した電力の総量を、調査にご協力いただいた各家庭数で割り、一家庭当たりの平均電力使用量を算出したものです。

傾向としては一人当たりの平均電力使用量と同様で、11月から1月にかけて使用量が急激に増加しており、最も使用量が少ない8月（383kwh）と最も使用量が多い1月（952kwh）との差は約2.5倍でした。

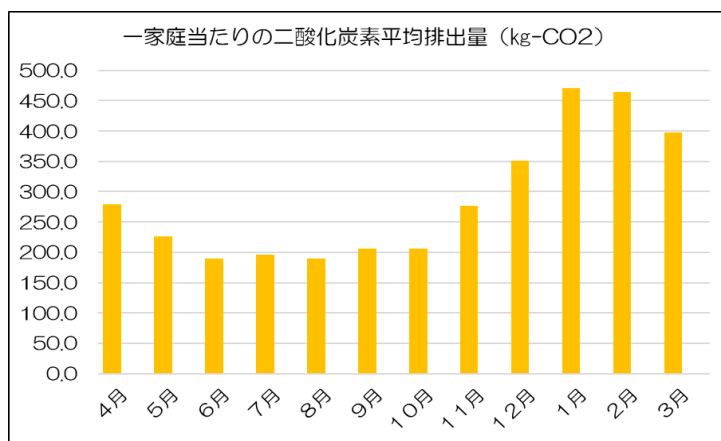
(3) 一人当たりの二酸化炭素平均排出量 (kg-co2)

各家庭の電気使用量をもとに、一人当たりどれだけの二酸化炭素が出ているかを計算したものです。

傾向としては6月から10月にかけては約47kg-co2で推移していますが、11月から1月にかけて使用量が増加しており、最も使用量が少ない8月(46.3kg-co2)と最も使用量が多い1月(115.2kg-co2)との差は約2.5倍でした。



(4) 一家庭当たりの二酸化炭素平均排出量 (kg-co2)



(3) で算出した二酸化炭素排出量の総量を、調査にご協力いただいた各家庭数で割り、一家庭当たりの二酸化炭素平均排出量を算出したものです。

傾向としては一人当たりの二酸化炭素平均排出量と同様で、11月から1月にかけて排出量が急激に増加しており、最も排出量が少ない8月(189.2kg-co2)と最も排出量が多い1月(351.1kg-co2)との差は約

○全体をふりかえって

上記のグラフからも分かりますとおり、気温が低くなる11月から4月にかけては暖房器具を使用する頻度が多くなることから、全国的にも電気使用量が高くなる傾向があります。

しかし、昨年の諏訪地域では、平均気温が零度を下回る月はなかったことから、地球温暖化の影響が目に見える形で現れてきています。

これらのことから、電気使用量と二酸化炭素排出量を減らすためのポイントは、どれだけ冬期に省エネに取り組めるのかということになります。

各家庭で無理なくできること(窓を二重サッシにしているべく寒い空気を遮断する、一枚多く羽織る、暖房器具を使い分ける、眠るときは湯たんぽを使用する、エアコンを適温に設定するなど)を実践することで二酸化炭素排出量を減らしましょう。

オール電化の住宅に住まわれている方は、特に電気使用量を把握しておくことが大切です。環境家計簿等を活用し、現況を把握することは省エネだけでなく、家計の負担軽減にもつながります。

「衣・食・住」のひと工夫で暖かい冬を過ごすことができますので、今年の冬は、これらの取り組みを参考にしながら、みんなの力でカーボンニュートラルの実現を目指しましょう。